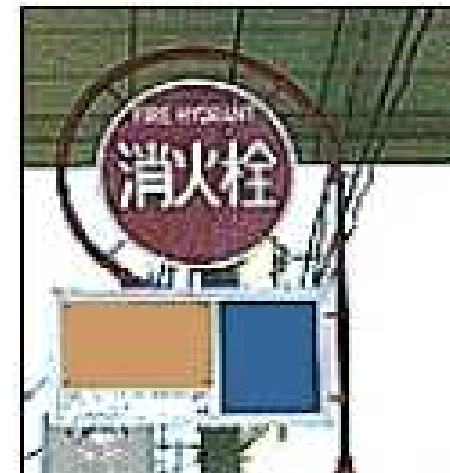


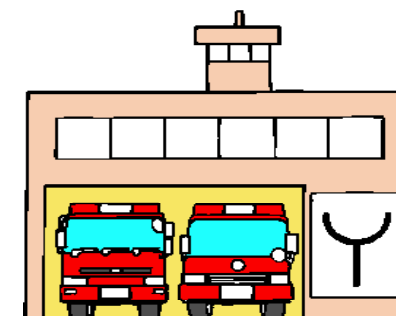
消火せん・防火水そう

- 町の中には、あちらこちらに、消火せんや防火^{ぼう か}水^{しょうぼう}そうがあります。火事^{しょうぼう}のとき、消防自動車は、ここから水をとって、火を消します。
- 消火せん**… 道路わきの赤い柱の上に、右上ののようなひょうしきで、場所をしめています。地下のせんをひねると水がふき出すしくみです。
- 防火水^{ぼう か}そう**… プールのように、水をためてある場所です。地下にうめられていることもあります。また、プールや池、湖などを防火水^{ぼう か}そうに使っているところもあります。



火事をふせぐための仕事

- 火事をふせぐために、消防^{しょうぼう}しょは、どんな仕事をしているのでしょうか。



1 安全点けん

ガソリンスタンドのように、火事が起こるときけんな所や、デパートのように、人が多く集まる所に行って、火事をふせぐせつび（火さいほううち機^きなど）の点けんをする。

2 消火せん・防火水そうの点けん^{ぼう か}

いつも使えるかどうか、町内の消化せん・防火水そうを点けんする。



3 火事をふせぐためのこう習会を開く

とくに火事の多いきせつに、火さい^{よ ぼう}予防運動の期間をもうけて、火の用心をよびかけている。

火事をふせぐための活動

◆ 消防^{しょうぼう}しょでは

- 新しくたてるたてものが，法りつできめられたように，火事をふせぐせつびをきちんとととのえているか，調べる。
- 消防^{しょうぼう}車^{しゃ}など，消火活動に使うせつびの手入れや点けんをする。
- 地^{しょうぼう}いきの消防^{だん}団や消防^{しょうぼう}少年^{しょうねんだん}団，婦人^ふ消防^{じんしょうぼう}クラブのくんれんをしどうする。



◆ 消防^{しょうぼう}団^{だん}とは

火事^{しょうぼう}のときだけ，げん場^ばにかけつけて，消防^{しょうぼう}しょの人のお手つだいをする人たち。

昼は会社などにつとめ，夜や休みの日に，消防^{しょうぼう}のくんれんや，消防^{しょうぼう}自動車^{しやうどう}の手入れなどをする。

火事の原因

火事の原因(2003年)



しょうぼうちよう
(消防庁調べ)

<％は「パーセント」と読む。1％は
100分の1を表す。>

左のグラフを見てみると、放火以外^{い がい}は、たばこの火やたき火のふしまつなど、ちょっとした注意ぶそくから起こる火事が多いことがわかります。

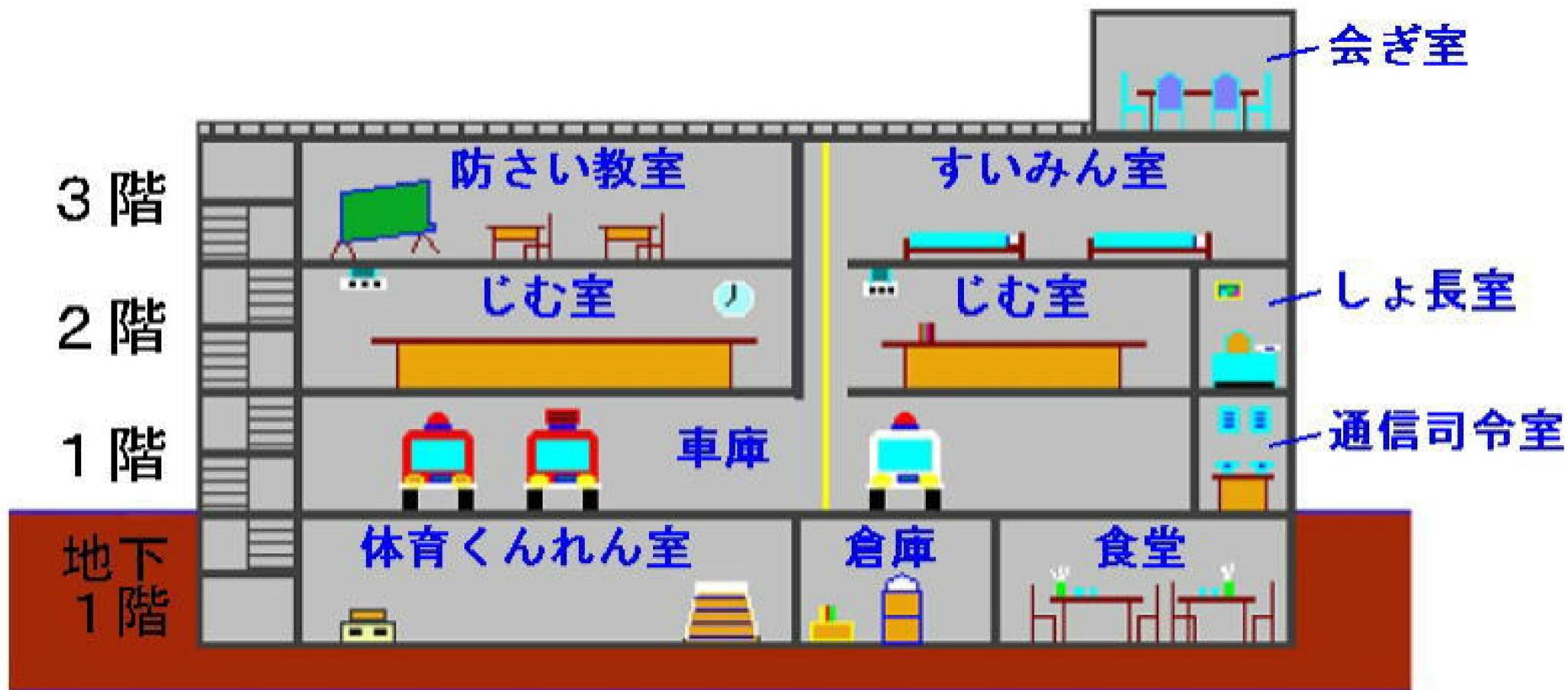
2003年には、日本全国で、56333けんの火事が起こっています。

これをもとに計算すると……

10分に1けん日本のどこかで火事が
起こっていることになります。

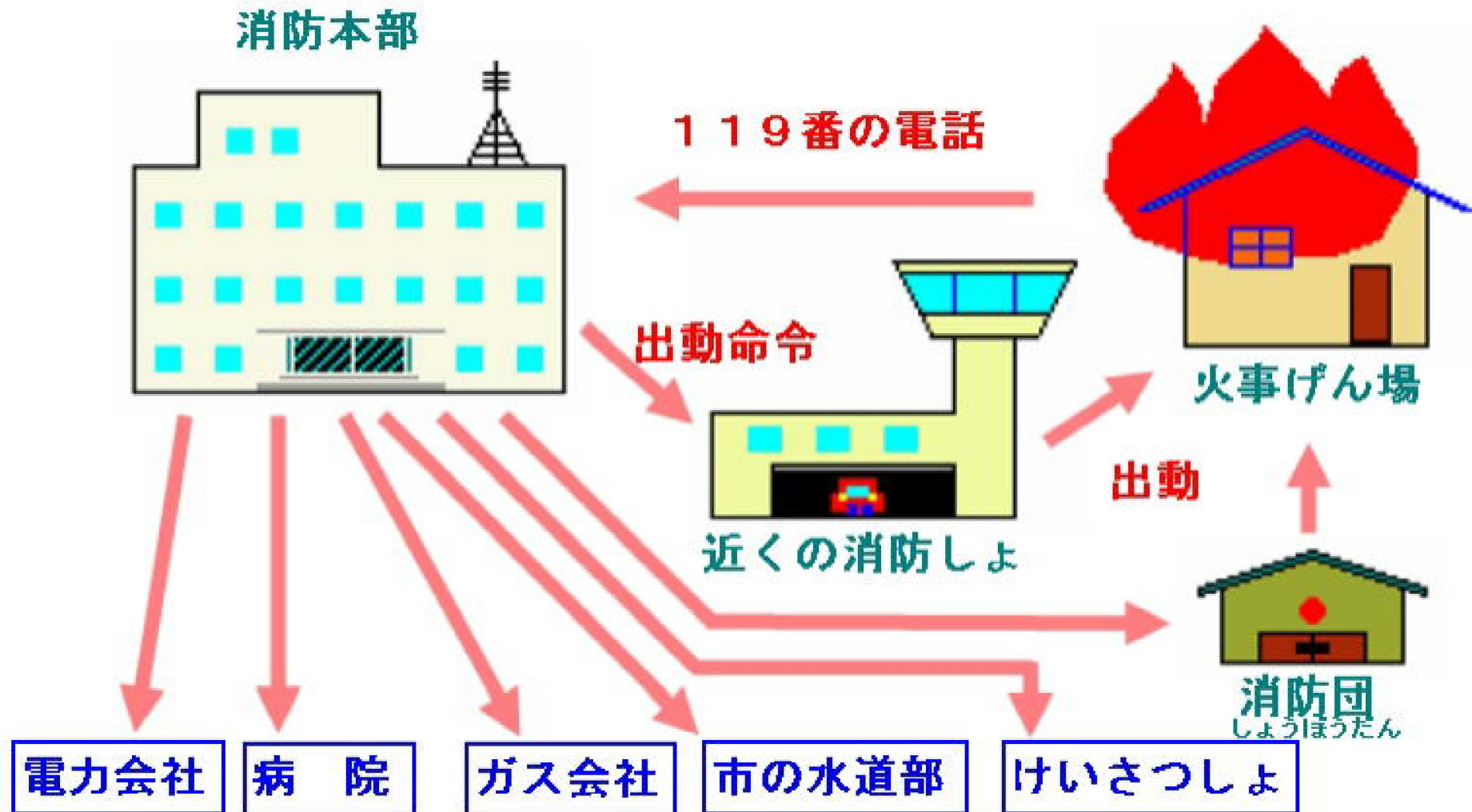
※放火…火事を起こすため、人の家などに、わざと火をつけること

消防しょのようす



- それぞれ、何のためにある部屋か、考えてみましょう。

火事の際のれんらくのしくみ



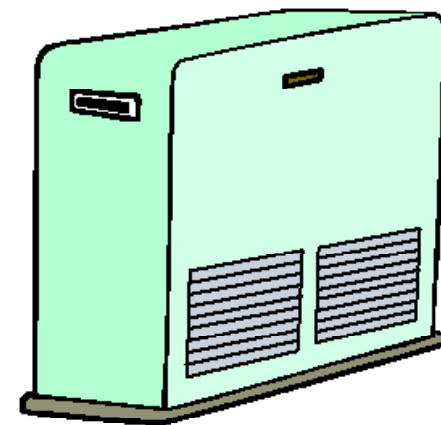
- しょうぼう
消防本部が、いろいろな所にれんらくするのは、何のためでしょう。

火事が多いきせつ

◆ 冬と春は、火事が多いきせつです。なぜでしょう？

- ・ ストーブやこたつなどのだんぼう器具^{きぐ}を、
毎日使う。

このころは、寒さがもっともきびしくなるので、だんぼうをします。また、外では、たき火などもします。そのため、火事が多く起こるのです。



- ・ かわいた強い風^{たいりく}がふく。

冬になると、大陸のほうから、つめたい風がふいてきます。(きせつ風) そうすると、太平洋側^{がわ}では、かわいた強い風がふきやすくなります。

そんなときに火事が起こると、火は風にあおられて大きくなり、大火事になりやすいのです。